

深川獵師町と永代橋周辺

江東区深川江戸資料館

先号では「深川佐賀町界限」として、今でも残る「蔵の町」の様子と、佐賀町に残る史跡や文化財を紹介しました。本号は、深川獵師町と、佐賀町から眼前に見える永代橋や隅田川河口周辺を紹介します。

深川獵師町

「獵師」という漢字を使うと、鳥獸を捕獲する狩人のように感じますが、魚を獲る「漁師」と同じ意味です。「獵師町」とは半農半漁村でなく、漁業専従の純漁村的な性格の町をさしています。

深川獵師町は、寛永6年(1629)、隅田川の河口にあたる深川南西部の湿地帯を、摂津(大阪)方面からきた漁師8名によって埋立てられ成立した町で、深川獵師町八か町と呼ばれていました。

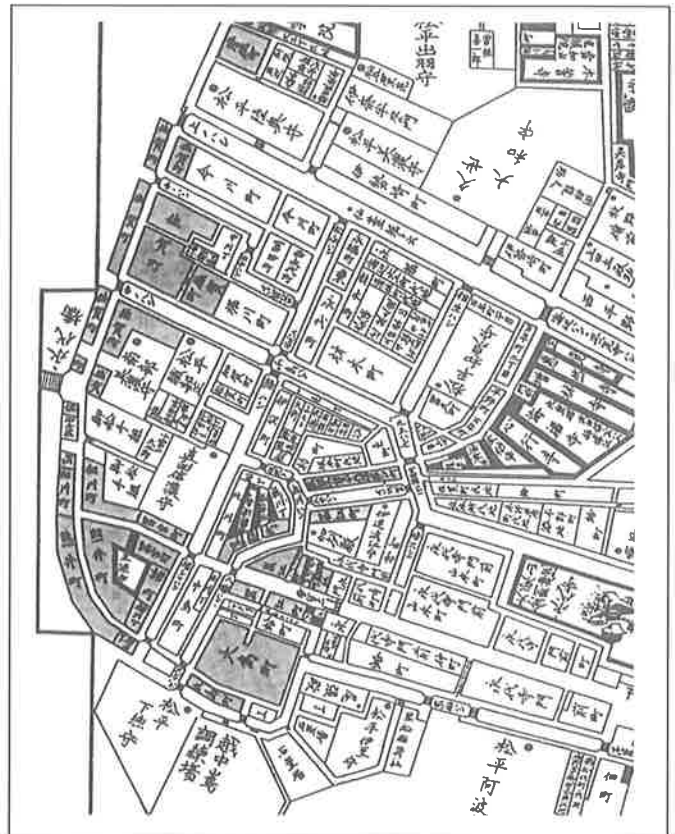
当初は開拓者の名前をとって名づけられましたが、元禄8年(1695)に町名が変更・整理され、次のようになりました。前号の佐賀町(藤左衛門町・次郎兵衛町)をはじめ、相川町(新兵衛町)・熊井町(理左衛門町)・清住町(弥兵衛町)・富吉町(助十郎町)・諸町(彦左衛門町)・黒江町(助右衛門町)・大島町で、現在の清澄・佐賀・永代・富岡・門前仲町の一部です。

深川獵師町は、一般漁村と違って、漁業を免許されたかわりに、年36回の魚介物の献上(御菜御肴)・鷹狩時の役船御用などさまざまな役負担を担っており、幕政にとって重要な役割を果たしていました。

深川獵師町の沿革を知ることができ、また、初期の深川の開発についての貴重な史料として、相川町の代々の名主相川新兵衛家に伝来した『寛永録』(全7巻・東京都公文書館蔵)が、江東区教育委員会から刊行されています。興味のある方は、是非ご一読を。

永代橋

ライトアップが美しく、テレビドラマでも度々使われ、また江東八景にも入っている景勝地の1つ永代橋。この橋は、元禄11年(1698)、「深川の大渡し」といわれた渡し場に架けられました。隅田川に



文久2年(1862)「本所深川絵図」<部分>(『江東区史』上巻より)。□部分が深川獵師町

架かる橋の中で4番目に古く、相生橋ができる(明治36年)までは隅田川最下流の橋でした。当時は、現在地よりも100m程上流に架けられていましたが、水面からの高さが1丈(約3m)もあり、橋上から富士や筑波、箱根などが遠望でき、眺望の良い江戸一の大橋でした。しかし、享保年間(1716～35)には、橋の維持費がかかることから廃橋案も出ましたが、周辺の町々が維持費を負担するという条件で存続しました。

橋名については、周辺が永代島と呼ばれていたことによりますが、5代將軍徳川綱吉50歳の祝賀の意味がこめられているともいわれます。

また、「忠臣蔵」でおなじみの赤穂義士が、元禄15年(1702)12月、本所松坂町の吉良邸討入り後、この橋を渡って泉岳寺(港区)へ引揚げました。この時、橋際のちくま味噌の店頭で休息、甘酒の接待を受けたという碑も建てられています。



永代橋と石川島・佃島方面

永代橋付近は、隅田川の河口にあたり、「江戸の入口」でもありました。今はこれより先まで開発が進み、高層ビルがそびえています。

永代橋に関わる大災害として、文化4年(1807)8月、富岡八幡宮の祭礼で、大勢の群衆で橋が崩落し、多数の死傷者を出すという出来事がありました。この時の供養塔が、深川にあった海福寺(現目黒区)に残っています。

越中島

佐賀町河岸通りを南下して永代橋まで来ました。永代橋を中程まで渡り隅田川河口を眺めると、現代建築の粋を集めた巨大なマンション「大川端リバーシティ21」が眼前に迫ってきます。江戸時代、石川島・佃島といったところの変貌ぶりに驚かされず。

ここから、左側(東岸)の江東区側に目を移しましょう。永代橋東詰際から、大島川水門までの緩やかなカーブを描いている護岸地域(永代1)が、深川獵師町八か町のうち相川町・熊井町にあたる所です。水門近くの永代公園には「深川獵師町跡」の史跡説明板が建てられています。

水門から南が越中島です。越中島は河口にできた寄洲であったところを、榊原越中守が賜って名前がつきました。度々の風浪のため土地が崩れ、土地を幕府に返上し、わずかに石置場として使われていました。正徳元年(1711)町屋敷となり、天保13年(1842)武家地となりました。幕府はペリー来航(1853)以来、軍事調練の必要を痛感し、安政2年(1855)にこの地一帯を「調練場」としました。

明治に入り、町全体が陸軍用地となり、引き続き「練兵場」として使用されましたが、同24年(1891)に廃止されました。跡地には陸軍糧秣本廠(兵士の

食料や軍馬の飼料を貯蔵し、戦地に補給するための施設)や東京商船大学が建てられました。

練兵場があった名残として、「練兵衛橋」(大島川水門近く)「調練橋」(調練橋公園)が残っています。東京商船大学内には、国の重要文化財でわが国最古の帆船「明治丸」が保存されています。



明治丸【東京商船大学構内】